

< はじめに >

○大阪の「キタ」と「ミナミ」

・大阪市内の代表的地域として「キタ」と「ミナミ」の呼称がある。梅田周辺の繁華街を指す「キタ」と市内を南北に走る大動脈「御堂筋」で結ばれた道頓堀を中心に難波周辺の繁華街を指す「ミナミ」を言う。この呼び名は一般的な呼称で、その範囲について明確な規定はなく、「ミナミ」も広範囲でとらえた場合、北は心齋橋駅周辺から南は南海難波駅周辺、日本橋近辺の繁華街も含めた、阪神高速1号環状線と阪神高速13号東大阪線(中央大通り)に囲まれた地域を指している。また、そのイメージとしては、「キタ」が”都会的でハイクラスなイメージ”であるのに対し、「ミナミ」は、「なんばグランド花月」や「アメリカ村」、道頓堀の食堂街で代表されるような”庶民的でコテコテな街、若者の集う街”として捉えられている。

・この冊子では、上記「ミナミ」地域のうち、北は長堀通りから南は「難波駅」の少し南側まで、東は東横堀川から西はもと西横堀川に囲まれた区域をその対象としてまとめることとする。

・歴史的には、江戸時代の大坂市街を示す”大坂三郷”のうち「南組」の南半分にあたるが、その南組も現・千日前通りの南側までで、それより南の難波周辺は「東高津村」・「西高津村」・「難波村」・「三津寺村」といった農村地域で、特に難波村は近郊農村として大坂市街への野菜供給を担っていた。

そのような地域が市街化されるようになったキッカケは、明治18年(1885)に南海電鉄の前身である「阪堺鉄道」が難波～大和川間に開業してからで、明治30年(1897)には大阪市第1次市域拡張に伴って「大阪市南区」に編入された。(現在地に南海電鉄の駅舎として石造2階建て難波駅(3代目)が完成したのは明治44年[1911]である。)

・江戸時代から芝居小屋やお茶屋が建ち並んだ宗右衛門町、道頓堀や千日前地区は、その後も「船場」の旦那衆が、花街で遊ぶとともに芝居や演芸を堪能し、美味しいものをしたまま食べるといったエンターテインメント(娯楽に根差した文化)と「食いだおれ」の街として発展してきた。

・現在は、平成元年2月に旧「東区」と統合され、「中央区」となっている。

「南地五花街」

・江戸時代前期、道頓堀川南岸に芝居小屋が建ち並び、それに付随して道頓堀通の北側に芝居茶屋が軒を連ねるようになって花街が形成された。そうした南地の宗右衛門町、九郎衛門町、櫓町、坂町、難波新地が「南地五花街」と呼ばれ、最盛期には、お茶屋750軒、芸妓2,800人、娼妓1,800人を数えたといわれる。

「道頓堀川」について

・道頓堀川は、東横堀川の南端から西流して木津川に合流する全長約2.7kmの運河で、もと西横堀川より下流は西道頓堀川とも呼ばれる。

・慶長17年(1612)、新川奉行に安井道頓(市右衛門成安)が任命され、開削が開始されたが、道頓が”大坂の陣”で戦死したため、従弟の弟・安井九兵衛(安井道ト(ドウボク))や平野藤次らが引き継ぎ、元和元年(1615)に完成した。

当初は、南堀川・新川などと呼ばれていたが、大坂城主の松平忠明が道頓の死を追悼し、その功績に鑑みて「道頓堀」と命名したとされる。

・また、「大坂濫觴書一件」によると、道トが合戦後の工事再開の認可を受けた際、徳川氏からの人夫提供の誘いを断って久宝寺から百姓を呼び寄せ、自らの手で工事を完成させたとある。開削後、川の兩岸開発が行われて”道頓堀川八丁”と呼ばれる町が誕生しているが、その内、「九郎右衛門町」、「宗右衛門町」などの各町は安井家出入りの百姓で、開削工事の衝にあたったあと、兩岸開発を行った者達の名が付けられている。

・道トは、寛永2年(1625)、川筋の振興策として芝居町を道頓堀川の南岸に移転させた。承応2年(1653)には、芝居名代5株が公認され、興行権免許の印として櫓を正面に掲げた小屋が道頓堀通の南側に建ち並んで歌舞伎や人形浄瑠璃が演じられるようになった。

・東横堀川から西横堀川の間、東から「下大和橋」、「日本橋」、「相合橋」、「太左衛門

橋) (現在も木橋)、「戎橋」、「大黒橋」が架けられて、北岸には芝居茶屋が47軒(「いろは茶屋」)が並び、南岸に、東から「竹田芝居(弁天座)」、「若大夫座(朝日座)」、「角の芝居(角座)」、「中の芝居(中座)」、「築後芝居の戎座(浪花座)の「道頓堀五座」(五つ櫓)が軒を連ねていた。

・堺筋の日本橋北詰交差点北東角に「贈従五位安井道頓、安井道ト紀功碑」と記された大きな石碑が建立されており、向かい側には小野十三郎の「たたずめば、思いははるかわが川」で始まる詩碑が立てられている。

「東横堀川」について

・天正13年(1585)、豊臣秀吉の命により大坂城の西惣構堀として開削された大阪市内で最古の堀川で、全長約3km。土佐堀川から南へ分かれ、のちに道頓堀川と結ばれた。"大坂冬の陣"で両軍が和睦した際、その条件として一旦埋め立てられるが、翌年に大坂城が落城のあと、掘り返された。現在は川の上を阪神高速環状線の高架が走っている。

